

初期消火用器具の取扱い

災害に強いまちづくりをめざして、佐用町では、火災が発生した場合に消防隊が現場に到着するまでの間、住民の皆さんの協力によって火災の被害を最小限にとどめていただくため、ホース格納箱を設置しています。

このホース格納箱には、「消火ホース2～3本、筒先1本、スタンドパイプ1本(地下式用)、消火栓開閉器1本」が収納されています。

初期消火用器具を、安全に、正しく、しかも素早く取扱っていただくための取扱い方法は次のとおりです。

◆ 初期消火用器具の解説(地下式消火栓)

【ホース格納箱】

ホース格納箱の中には次の器具が収納されています。



● 消防用ホース3本

ホース1本は20メートル 最大60メートルまで延長できます。



● 筒先

炎に対して放水するための器具です。



●スタンドパイプ

深い地下式消火栓の吐出口を地上に立ち上げる器具です。



●消火栓開閉器

地下式消火栓の蓋を開き、吐出口の開閉に使用する器具です。



【消火栓】

地下式消火栓

《角型蓋消火栓》



地上式消火栓



◆ 各担当者別の取扱い方法

住民の皆さん(出来る限り4人以上)が協力して、火災現場に一番近い消火栓まで各初期消火用器具を持ち運びます。消火栓に着いたら、それぞれの役割分担(消火栓の開閉を担当、ホースの延長を担当、放水を担当)に基づき協力して行動します。(1人~2人では操作は難しい)

● 消火栓の開閉を担当する人

① 開ける

消火栓の蓋に消火栓開閉器を使用し開きます。

● 角型蓋消火栓の開け方

開閉器のとがった部分を利用して開けます。



● 地上式消火栓の開け方

黒い蓋を左に回し外します。



② 差し込む

地下式消火栓

消火栓内の吐出口のキャップを取り、スタンドパイプを差し込みます。



地上式消火栓

消火栓のフタを開けて消火栓ハンドルを差し込んでください。



③回す(開閉操作はゆっくり行ってください！)

開閉器を消火栓内の開閉栓に差し込み、左へ回して(蛇口と同じ要領)水を出します。

※送水量は筒先保持者の放水態勢を確認しながら少しずつ増やします。

【開閉器は次のように動かします】(一部地域のみ)

横棒を回しながら上下に動かし固定し、蓋を開ける時や開閉栓の開閉に使用します。



※注意していただきたいこと

○消火栓の蓋は鉄製でとても重くなっています。足を挟んだり腰を痛めないよう注意してください。

○送水するのは、ホースが完全に延長して筒先担当者の「放水始め」の合図によって開始してください。ホースの延長途中に水がきますと、負傷する恐れがあり、また、これ以上のホース延長ができなくなります。

○筒先からの放水圧力は高からず、低からず常にベストの水圧を維持するよう水圧の調整(開閉器で開閉栓を開けたり閉めたりする)に心がけてください。

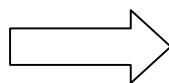
○放水は、消防隊が到着するまでの間です。消防隊が到着したら送水を停止して、あとは消防隊にまかせてください。

●ホースの延長を担当する人

①伸ばす

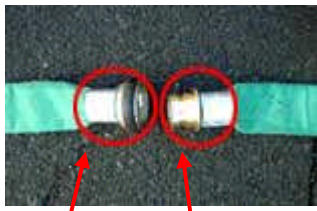
ホースの担当者(複数)は、各ホースを協力し合って延長します。スタンドパイプの先にホースのメス金具を結合し、オス金具を持ち、火災現場方向に向かってください。

20メートル先にもう一人のホース担当者がホースを運んでいますので、このホースのメス金具に、持ってきたオス金具を結合してホースを延長していきます。



② 結合する

火災現場付近にいる筒先担当者の持っている筒先にホースのオス金具を結合し、ホースの延長は完了です。



ホースの結合(左:メス金具 右:オス金具)

メス金具

オス金具



筒先の結合

(地下式消火栓)



(地上式消火栓)



③ 放水始め

筒先担当者の「放水始め」の合図により、消火栓担当者にこのことを伝達します。伝達が終わったら筒先担当者の後方に位置し、ホースを持って補助してください。

必要により筒先担当者から「筒先圧力を上げろ・下げろ」の指示があったら、そのことを消火栓担当者に伝達してください。

※注意していただきたいこと

○ホースは、消火栓側(元)にメス金具が、火災現場側(先)にオス金具となります。よくあわててメス金具をもって走る人がいますが間違わないようにしてください。

○ホースとホースの結合(メス金具とオス金具の結合)は、「カチッ」と音がするのを確認するまで確実に行ってください。

○ホースの延長は、折れ曲がりやよじれのないように延長してください。

○消火栓から火災現場までの距離によって、延長するホースの本数を決めてください(いつも3本を延長するのではなく、1本又は2本の方がベストの場合があります)。必要以上のホースを延長しますと、ホースがからまるなどして水が出なくなります。

●放水を担当する人

①構える

放水する位置は、屋外の足場のよい安全な場所としてください。

②放水始め

ホースが延長され筒先に結合し、準備が整ったら「放水始め」をしてください。

送水が始まると、筒先にかかりの衝撃が加わってきますが、驚いて筒先を落とすことのないよう(けがすることがあります)しっかりと握るとともに少し体を落とし、安定した姿勢を維持してください。

放水は、燃えている物体(炎に向けて)に行ってください。煙に放水しても素通りするだけです。

※注意していただきたいこと

○放水は絶対に屋外から行うこと。まちがっても建物内部に入らないでください。落下物などがあり大変危険です

○放水圧力が高くて一人で持ちこたえられないときは、筒先は放さず、地面に伏せるなどして補助者が来るのを待ってください。

○放水が有効に行えるよう、筒先圧力を「上げる・下げる」の指示を補助者に行ってください。

◆最後に

これまで、ホースなどに触れたことのない人は、上記説明だけで、イザ！というとき行動することは、大変難しいと思います。まず、自主防災組織等の訓練に参加して、ホースの延長方法等を経験しておくことが大切です。

お願い

この消火栓は、火災・消防演習以外では絶対に使用しないでください。

消火栓を使用されると広範囲な地域で、家庭の水道水が濁るなどの事態が生じる恐れがあります。

開閉操作はゆっくり行ってください。水撃圧(ウォーターハンマー)により管路や設備などへの圧力が急変し、悪影響がでます。

消防演習でご使用の場合には、消火栓使用届をご提出ください。